

# 保健体育科学習指導案

指導教官

実習者氏名

1、日 時 6月18日(火) 3限

2、場 所 教室

3、学年・組 2年4組

4、単元名 傷害の防止

## 5、指導にあたって

### (1) 単元について

本単元では、交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因とその予測と回避、悪化の防止方法について学習する。

本内容は、

- ・交通事故や自然災害などによる傷害は人的要因、環境要因及びその相互の関わりによって発生すること
- ・交通事故などの傷害の多くはこれらの要因に対する適切な対策を行うことによって防止できること
- ・自然災害による傷害の多くは災害に備えておくこと
- ・災害発生時及び発生後に周囲の状況に応じて安全に行動すること
- ・災害情報を把握することで防止できること
- ・迅速かつ適切な応急手当は傷害の悪化を防止することができること

などの知識及び応急手当の技能と、傷害の防止に関する課題を解決するための思考力、判断力、表現力等を深めることができるように構成されている。

### (2) 生徒の実態

本学級の生徒は明るく活発で人懐こい生徒が多く、班活動に対しても協力的な生徒が多い。しかし、活発すぎて集中力に欠ける場面もあり、話も脱線することがある。教師が話そうとしている場面においても、生徒同士の会話をなかなか止めず切り替えができないことがあるが、自分たちの興味・関心の高いことには集中して取り組むことができる。

体を動かすことが好きな生徒が多く、休み時間などでは、積極的に外で遊ぶ生徒が多いが、中には周囲のことを考えずにふざけ合ってしまう生徒もおり、傷害を防止するという点では危機感をあまりもっておらず、不注意などで怪我をしそうな場面も見られる。

### (3) 指導について

本単元を通して、生徒に「傷害の防止について、課題の解決を目指した学習活動などにより科学的に考え、判断し、それらを表す力」と「傷害の防止について、課題の解決に役立つ基礎的な事項」を身に付けさせるため、以下の2点に重点を置いた指導を行いたい。

#### (ア) 主体的、対話的な学習活動の設定

他者の意見を聞き、自身の考えを分析・整理し、それを説明できるようにするために、ペアワーク・グループワークを行い、全体の場で共有する時間を設ける。そうすることで、多様な考えに出会うことができ、自身の考えと他者の意見を比較することができると思う。グループ活動に協力的な生徒も多いことから、意見を共有する際には理由や根拠をもとに自分の考えを述べ合い、班の意見を紙やホワイトボードにまとめるなどして、発表を行わせ子供たちの表現力を伸ばしていきたい。

#### (イ) 身近な題材を用いた学習過程

危険を予測し、回避する力を養うための基礎的な知識を身に付けさせるために、身近な問題であるという実感を持たせることが必要であると思う。身近な問題であると思わせることで、生徒に関心を持たせ、自然と学んだことが印象に残るようになるのではないだろうか。実感を持たせるため、教科書の例に出てくる状況や環境が自分たちの家の近くにないかなどを問い、生徒達が身近なものだと捉え、傷害の多くは安全な行動と環境の改善によって防止できることに気づかせたい。そのために、授業の中では学校周辺の写真を用いたり、映像資料も活用していきたい。

## 6、単元目標

- ・傷害の防止について、仲間と協力して話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。【関心・意欲・態度】
- ・自然災害や交通事故などによる傷害の防止について、自分達の生活や事例などをもとに、日常生活に当てはめたり、関係を見つれたりするなどして、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。【思考・判断】
- ・自然災害や交通事故の発生には様々な要因があり、それに対する適切な対策によって傷害の多くは防止できること、応急手当は傷害の悪化を防止することができることを理解できるようにする。【知識・理解】

7、単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
① 傷害の防止について、健康に関する資料を見たり、自分達の生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	① 傷害の防止について、健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。	① 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因について理解したことを言ったり、書き出したりしている。
② 傷害の防止について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	② 傷害の防止について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	② 交通事故や自然災害などによる傷害の防止について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ③ 応急手当について理解したことを言ったり、書き出したりしている。

8、指導計画 全 10 時間中 4 時間目

時間	傷害の防止	
①	〈ア〉 交通事故や自然災害などによる 傷害の発生要因	傷害の発生要因
②		交通事故の発生要因
③	〈イ〉 交通事故などによる傷害の防止	交通事故の危険予測と回避
④		犯罪被害の防止 (※本時)
⑤	〈ウ〉 自然災害による傷害の防止	自然災害による危険
⑥		自然災害による傷害の防止
⑦		共に生きる〈発展〉
⑧	〈エ〉 応急手当の意義と実際	応急手当の意義と心肺蘇生法
⑨		けがの応急手当
⑩		実習:心肺蘇生法

## 9、本時の目標

犯罪被害の防止について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組むことができる。【関心・意欲・態度】

自分達の生活や事例などをもとに、日常生活に当てはめたり、関係を見つけたりするなどして、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。【思考・判断】

犯罪被害の防止について理解したことを言ったり、書き出したりしている。【知識・理解】

## 10、本時の展開

	学習活動	指導及び指導上の留意点	評価	
導 入 5 分	1.挨拶、出席確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・忘れ物、欠席確認</li> <li>・教科書、学習ノートのページ数を指示する。 (教科書 p.70・71 学習ノート p.20・21)</li> <li>◇生徒がページを開けているか 机間指導を行う。</li> </ul>		
	2.本時の学習課題を知る			
	これまでに学習した環境要因と人的要因から、 犯罪による傷害の防止について学習しましょう。			
	3.ワードを知る ○犯罪被害			
	4.ウォームアップを行う ① 数名回答する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いかのおすし」それぞれの約束を記入させる。</li> <li>◇小学校で習ったことを思い出させる。</li> <li>【スライド④】</li> </ul>		
5. 伏見区通学区別刑法犯認知状況から、近くで起きている犯罪被害について知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伏見区通学区別刑法犯認知状況から桃山学区の被害状況を説明する。</li> <li>◇被害として取り扱われている件数が表になっているだけで、実際はもっと多い可能性があることを補足する。</li> <li>◇自分たちが住んだり、毎日通っている地域の被害を知ること、犯罪被害を身近な問題として捉えさせ、学習への意欲付けを図る。</li> <li>【スライド⑤～⑦】</li> </ul>			

展 開 4 0 分	<p>6. 犯罪被害について知る</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈やってみよう〉 資料1を見て、小学生や中学生はどのような場所で犯罪の被害に遭っているのか、話し合ってみましょう。</p> </div> <p>(1)ペアで考える。 (2)何組か発表させる。 (3)教科書資料1を確認する。</p>	<p>・グラフからポイントを読み取らせる。 ・資料1の説明を行う。 ◇小学生より中学生のほうが被害に遭っていること 学校以外、屋外の犯罪被害が多いこと に注目させ、教科書に丸を付けさせる。 【スライド⑧～⑪】 ・犯罪被害の環境要因とその対策について、スライドをもとに説明する。 ◇領域性、監視性、抵抗性について順に説明する。 ・資料2と関連した学校の写真を使用し、領域性、監視性、抵抗性について順に説明する。 ◇門前での挨拶、監視カメラに犯罪の抑止力があることを補足する。 【スライド⑫～⑭】</p>	<p>・課題の解決に向けての話し合いや意見交換などに意欲的に取り組むことができる。 【関心・意欲・態度】</p>
	<p>7. 犯罪被害の環境要因・人的要因とその対策</p> <p>(1)犯罪被害の環境要因とその対策について知り、資料2から犯罪を防ぐための3要素を知る。 ①教科書を読む。(指名) ②スライドの内容をノートに記入する。</p> <p>(2)犯罪被害の人的要因とその対策について知り、資料3のイラストから、危険を考える。 ①教科書を読む。(指名) ②スライドの内容をノートに記入する。 ③資料3のイラストから考えられる危険を発表する。(指名)</p> <p>8. 考えてみようを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>次の絵を見て、犯罪被害の危険を予測し、Aさんがそれを回避して安全に家に帰る方法を考えましょう。</p> </div>	<p>・犯罪被害の人的要因とその対策についてスライドをもとに説明する。 ◇前回授業で学んだ危険を予測することで事故を回避できることが、犯罪被害でも当てはめられることを抑える。 ・資料3のイラストから、危険を考えさせる。 【スライド⑮～⑰】</p>	

	<p>(1)班で話し合う。</p> <p>(2)意見を画用紙にまとめる。</p> <p>①危険だと思う箇所を丸で囲う。</p> <p>②危険だと思う理由とその回避方法を付箋に書く。</p> <p>③帰宅ルートをペンで書く。</p> <p>(3)挙手で各班回答を発表する。</p>	<p>・まとめ方を説明する。</p> <p>◇必要以上に付箋を使わないよう注意する。</p> <p>◇部活動の帰りなど、生徒達に考えられる似た状況で説明する。</p> <p>【スライド⑳～㉑】</p> <p>・発表後、みんなで守る地域の安全について説明する。</p> <p>◇落書きの多い場所などが、地域の人たちの関心が低く、犯罪被害が起りやすいことを説明し、地域の安全活動の重要性を伝える。</p> <p>【スライド㉒㉓】</p>	<p>・自分達の生活や事例をもとに、日常生活に当てはめたり、関係を見つめたりするなどして、課題の解決を目指して、知識を活用したグループワークにより、科学的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。【思考・判断】</p>
ま と め 5 分	<p>9.学習のまとめ</p> <p>(1)まとめ問題を解く</p> <p>(2)次時の活動を知る。</p>	<p>・まとめ問題の答え合わせを行う。</p> <p>◇理解した内容を、今後の自分の生活にどう活かしていけるか等も学習ノートに記入することで、それぞれの考えを深め、実践へと繋げられるように支援する。</p>	<p>・犯罪被害の防止について理解したことを言ったり、書き出したりしている。</p> <p>【知識・理解】</p>

### 1.1、評価

項目	基準	評価基準		
		A(十分に満足できる内容)	B(概ね満足できる状況)	C(Bに達成できる手だて)
関心 意欲 態度	犯罪被害の防止について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組むことができる。	犯罪被害の防止について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組むことができ、解決方法を見いだしている。	犯罪被害の防止について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	(話し合えていない生徒に声をかけ、ペアの意見を確認させる。)

<p>思考 判断</p>	<p>自分達の生活や事例などをもとに、日常生活に当てはめたり、関係を見つめたりするなどして、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表すことができる。</p>	<p>自分達の生活や事例などをもとに、日常生活に当てはめたり、関係を見つめたりするなどして、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを他者に伝えることができる。</p>	<p>自分達の生活や事例などをもとに、日常生活に当てはめたり、関係を見つめたりするなどして、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断している。</p>	<p>(話し合いに参加できていない生徒に声をかける。考えを聞き、班の中に反映できるように促す。)</p>
<p>知識 理解</p>	<p>犯罪被害の防止について理解したことを言ったり、書き出したりしている。</p>	<p>犯罪被害の防止について理解したことを言ったり、書き出して、説明できている。</p>	<p>犯罪被害の防止について理解したことを言ったり、書き出したりしている。</p>	<p>(何も書けていない生徒に声をかけ、学習ノートと対応している教科書の文を示す。)</p>

〈使用備品〉

- ・付箋 各班20枚(黄10、ピンク10)
- ・色ペン 各班1本
- ・画用紙 各班1枚 ・地図(印刷) 各班1枚